



# 問いのつくり方

## — 「単元を貫く問い」と各時間の「問い」の在り方 —

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂 寅夫



【質問】新学習指導要領の実施に当たって「単元を貫く問い」が重要視されていますが、その問いの在り方やつくり方が不安です。「単元を貫く問い」をどのように立てるのがよいのでしょうか。

### その一 単元を貫く問いとは？

新学習指導要領総則では、指導計画の作成に当たって「各教科等の指導内容については、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導」が求められています。また、学習評価の充実のために「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫」することが同様に求められています<sup>(※1)</sup>。このことから「主体的・対話的で深い学び」の実現は、これまでのような1単位時間の授業の中ですべて行われるのではなく、単元など内容や時間のまとまりを見通した指導計画・評価計画が重要であると考えます。

ここで「単元や題材など内容や時間のまとまり」について、「単元」とは「中項目」（例：地理的分野の大項目B「世界の様々な地域」の中項目（2）世界の諸地域，大項目C「日本の様々な地域」の中項目（3）日本の諸地域）が該当すると考えられますが、各州や各地方の小項目を「題材などのまとまり」として捉えることもできます。以上のことから「単元や題材など内容や時間のまとまり」とは標準として中項目あるいは

### 小項目と捉えることができます。

よって「単元を貫く問い」とは、中項目あるいは小項目に関わる「指導内容を見通した一連の学習活動を喚起する問い（学習課題）」であると考え、単元の目標の達成のために「単元を貫く問い」を設定し、指導内容のつながり・構造から単元をどう構成するか、どのような学習活動を位置づけどう評価するかという指導計画・評価計画の構想が重要と考えます。

#### ポイント①



単元＝内容や時間のまとまりと捉え、何を問うかを考えること

### その二 問いの重要性と種類

社会の変化が著しい21世紀を生きる生徒には問題解決能力の育成が重要視され、課題発見、追究、解決のための思考・判断・表現力を育成することが学校教育に求められています。この思考する学習活動には、生徒の思考を促す問いが重要です。授業者の問いを受け止め、その問いの意味を理解・納得し、生徒自身が自らに問いかけてこそ思考は生まれ、その意味で生徒の納得を得られる問いが大切<sup>(※2)</sup>とされています。このことについては、「中学校社会科のしおり」2019年度2学期号のトラの巻⑩「生徒を引きつける導入の在り方」でも同様な内容で書いていますので、参照してください。

「問い」というといわゆる5W1H（いつ、どこ、誰、何、なぜ、どのように）が思い浮かびます。社会科の学習においては、長らく「い

つ、どこ、誰、何」の事実的知識を問う問いと、事実的知識を総合・総括することを求める「どのように」という記述的知識を求める問いが行われてきました。その後思考力の育成が重要視されると社会的事象の原因、要因、理由、本質を求める「なぜ？」という説明的知識を求める問いが大切とされてきました。さらに現行学習指導要領と新学習指導要領では社会参画意識・主権者意識の涵養の観点から、事実に基づく説明的知識を踏まえた「どうすべきか」という価値判断や意思決定を求める価値的知識を求める問いが重要とされています。

各授業時間での問いは事実的知識を求める問いや記述的知識をを求める問いを中心に展開し、思考を深める活動のために説明的知識をを求める問いを活用することが多いでしょう。数時間の授業を通して思考・判断の活動をするときには説明的知識や価値的知識をを求める問いの活用となるでしょう。

新学習指導要領による今後の社会科学習では、見方・考え方を働かせて事実的知識を基にし社会的事象の意味や意義を概念化する記述的知識・説明的知識をを求める問い、学んだことから社会への関わり方を選択・判断する価値的知識をを求める問い、これらの問いのそれぞれの意義を踏まえた「問いの構成」を考えた単元の指導計画を構想する必要があります。

#### ポイント②



学習活動に応じた問いがある

### その三 「単元を貫く問い」の設定と「各授業時間での問い」との関連

平成10年告示版学習指導要領の調べ方・学び方を育成する授業では、「どのように」の記述的知識と「なぜ」の説明的知識を求める問いが中心で、各授業時間において設定されていま

した。これに対し、前述したように「単元を貫く問い」は単元の目標を達成するものであり、その単元が中項目か小項目かで内容の広がり異なるため問いの表現が異なります。また説明的知識をを求める問いはどの単元でも可能ですが、価値的知識をを求める問いは、価値判断に至る学習活動が必要であり、中項目の単元または小項目の単元の場合は中項目のまとまりでの最後にあたる単元での設定が適切と考えます。

現行学習指導要領で世界の諸地域における「主題」と日本の諸地域における「中核的考察」が導入され、これを単元を通じてどのように展開するのかのヒントとして、教科書で各単元や各授業時間での学習課題が示されるようになりました。若い先生方はこれを参考にして単元及び各時間の学習課題を示し指導されていることでしょうか。ただ、各時間での学習課題＝問いを教科書通りの順番で時系列に指導すればよいと考えていませんか。しかし新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善や新たな評価としての「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方においては、これまで以上に「内容のまとまり」を意識した学習活動や評価が求められています。そのため時系列としての指導計画ではなく、「単元を貫く問い」がどこでどのように設定され、それに迫るための学習活動がどのように展開されるのか、どの学習活動がほかの学習とどうつながり関連づけられるのか、解決の活動にどう結びついてまとめられるのかなど、単元の指導計画を構造的に構想することが今後の学習では求められます。そのため教科書に示された学習課題を参考にしつつ、生徒主導でつくられた問いに表現を変えたり、各時間の内容に合わせ生徒が思考しやすいよう具体的問いの形にしたりする工夫が求められます。また、価値判断をを求める単元での学習ではそれまでの学習を踏まえて本質

に迫り深く学ぶための「新たな問い」を設定し、その問いに対する考えを記述したり意見交換したりする場面を取り入れ、**既習事項を振り返って「単元を貫く問い」を自分事として捉え選択・判断する学習活動の工夫**も考えられます。

最後に、世界の諸地域の北アメリカ州の学習において、単元を貫く問いとして説明的知識を問う問いを設定した場合の、単元構造を紹介します。

### 【説明的知識を問う問いの例】

◇導入  
アメリカ合衆国の農業・工業・貿易に関する統計資料を用いて地域を大観する

↓

**単元を貫く問い**  
「アメリカ合衆国が世界をリードし、日本とのつながりが深いのはなぜか？」

①北アメリカ州の大観  
「どのような特色が見られるか」  
・北アメリカ州の自然の特色→広大・多様

②移民の歴史と多様な民族構成  
「なぜ、多様な人種・民族が見られるのか」  
・移民の歴史と生活・文化との関連

③大規模な農業と影響  
「なぜ、大規模な農業ができるのか」  
・大規模経営と世界への影響

④世界をリードする工業  
「工業がどのように変化し、世界をリードするまで発展したのか」  
・重工業から先端技術産業への変化と世界へ影響を与える技術力

⑤世界に広がるアメリカ合衆国の影響  
・車社会と多国籍企業

↓

**【新たな問い】**「アメリカ合衆国の産業と生活は日本にどのような影響を与えているか」  
(自分事として考える)

また以下は、日本の諸地域の関東地方の学習において、単元を貫く問いとして説明的知識を問う問いを設定しつつ、単元の最後に新たな問いとして価値的知識を問う問いにつなげる単元構造で、東京都の中学校で行われている実践です。

### 【価値的知識を問う問いの例】(東京都の中学校の例)

◇導入  
東京大都市圏の人口集中を示した地図・統計資料と東京市街地の航空写真を用いて地域を大観する

↓

**単元を貫く問い**  
「東京大都市圏への人口集中は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのか」

①関東地方の大観  
「人口が集中する関東地方は、どのような特色が見られるか」  
・関東地方の地形と気候の特色

②首都・東京  
「なぜ、東京に人口が集中するのか」  
・首都機能と多様な面での日本の中心

③東京大都市圏の課題  
「拡大する東京大都市圏の課題は、何か」  
・拡大する市街地 ・過密の問題と対策

④人口集中がもたらした新しい産業  
「人口が集中した地域ではどのような産業が発達したか」  
・情報産業と商業・サービス業の変化

⑤臨海部から内陸部に移る工業とその影響  
「なぜ、臨海部から内陸部へ移転したのか」  
・京浜工業地帯から北関東工業地域へ

⑥大都市圏周辺の農業と山間部の過疎問題  
「大都市圏周辺の農業と山間部は、大都市圏とどのような結びつきがあるか」  
・近郊農業 ・過疎対策と地域再生

⑦東京大都市圏の今後の課題  
・東京の防災に関わる資料

↓

**【新たな問い】**「市街地が拡大し過密化する大都市東京の防災対策はどうあるべきか」  
(九州など他地方での防災学習との比較、大都市ならではの課題等、自分事として捉え考える)

↓

地理的分野「地域の在り方」  
公民的分野「地方自治」 へのつながり  
「東京大都市圏の防災対策はどうあるべきか」

### ポイント③



**単元の指導を構造的に考え、問いを吟味する**

〈参考文献〉

※1 文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成31年3月29日

※2 原田智仁『中学校新学習指導要領 社会の授業づくり』明治図書、2018年

\* 帝国書院のWebサイトには、中学校新学習指導要領のもとで実施される新しい学習評価について、単元を貫く問いと評価との関係を解説した資料を掲載しています。